

今考えよう！ 私たちの未来環境

丹波から始まった。

一昨年3月11日の東日本大震災による福島原発事故を一つのきっかけとした脱原発、自然エネルギーによる電力の確保の動きと昨年7月1日より施行されました「電力の固定価格買取制度」、そして多くの農山村漁村で抱えておられる「過疎化」「少子高齢化」「限界集落」、これらが重なり合い今現在取り組みやすい電力の確保として太陽光発電事業があるのではないかと考えます。そしてそのことの証として、太陽光発電事業は大きな広がりを見せています。このことは、当協会としても大変喜ばしいことです。

特に当協会が「地産地消」「地域の活性化」「地元の仕事づくり」として普及に努めている10キロワット以上50キロワット未満の太陽光発電所（通称プチソーラー）は、丹波地域の山王自治会での取り組みがマスコミ等に「自治会初の取り組み」として大きく取り上げられたこともあり、取材や視察等が数多くあつたと聞いています。そしてこの取り組みが起爆剤となり丹波地域を中心にプチソーラー発電所が数多く設置されてきました。

このことは、ただ単に太陽光発電が「儲かる」「投資した元が取れる」ということに止まらず、自分たちで使う電力は自分たちで作ろう、自然にやさしい環境づくりに寄与したい、そして特に大きな課題である「地域の活性化」に少しでも役に立ちたいという思いとして広がっていることに大きな夢と希望を感じます。

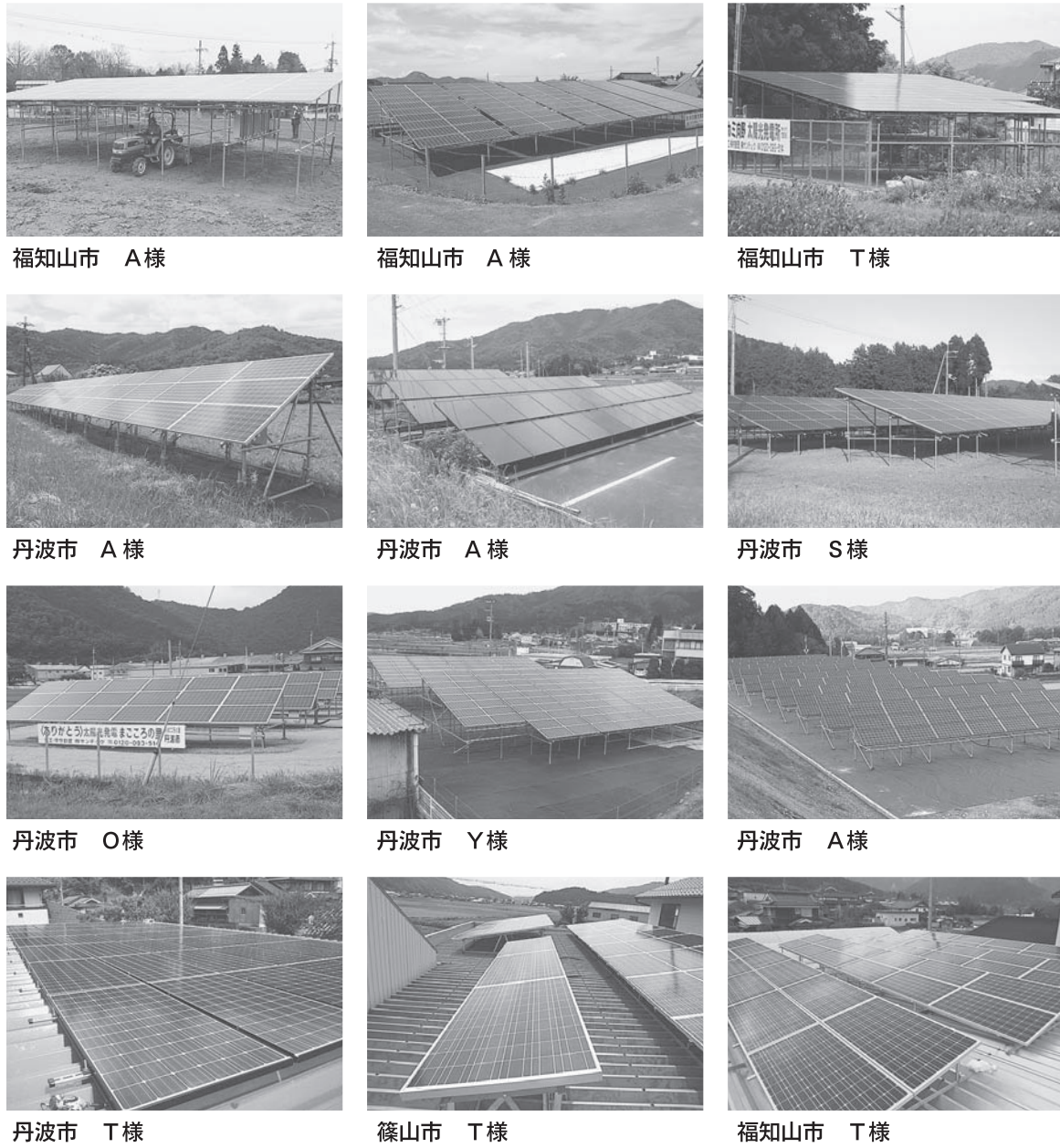
また、農村においては、農業と太陽光発電の共存（ソーラーシェアリング）として、耕作放棄地や非農地などの設置及び営農しながらの太陽光発電と、農家の生活を守ると共に農地も守ることにつながることを期待を与えてきています。これらの取り組みは、農村の過疎化を防ぐことにも大きな役割を果たすと考えます。

現在当協会が、把握しているだけでも、丹波地域内にはこの「プチソーラー」が遊休地や耕作放棄地などを活用し多く設置されています。言い換えれば、丹波の地から近畿、全国へと発信されてきたと言えます。

この4月から買取価格が下がりました。しかし、全体の工事費そのものも大きく下がったことにより、まだ当協会が目的の一つとして「地域おこし」には有効な取り組み手段だと考えます。当協会の会員及び賛助会員が設置した太陽光発電所を参考にいただき、地球温暖化対策、代替エネルギー対策だけでなく過疎化対策、農業再生の切り札となる可能性を持ったプチソーラー発電所を、今後も積極的に設置していただけるよう、より一層啓発に努めてまいります。

北近畿太陽光発電普及促進協会理事長 梅谷 馨（前養父市長）

丹波地域の産業用太陽光発電施設



福知山市 A様

福知山市 A様

福知山市 T様

丹波市 A様

丹波市 A様

丹波市 S様

丹波市 O様

丹波市 Y様

丹波市 A様

丹波市 T様

篠山市 T様

福知山市 T様

太陽光発電所見学会開催 6月30日(日)～7月7日(日)

全日 10:00～17:00まで ご自由にお越し下さい。

産業用太陽光発電システムを設置されたオーナー様にご協力いただき下記の「タクト春日発電所」にて実際の発電量や設備をご覧いただけます！



タクト春日発電所

私は毎月の収入の少ない農家の安定した収入源に、年金の足しになればと太陽光発電所を設置しました。また遊休地を利用した太陽光発電所設置は過疎化の進む農村に活力を与え、若者の定住促進にもつながるのではないかと思います。5月から発電を開始しましたが毎月のシミュレーションの1.7倍くらい発電していました。好天は太陽光発電にとっては何よりの天の恵みです。

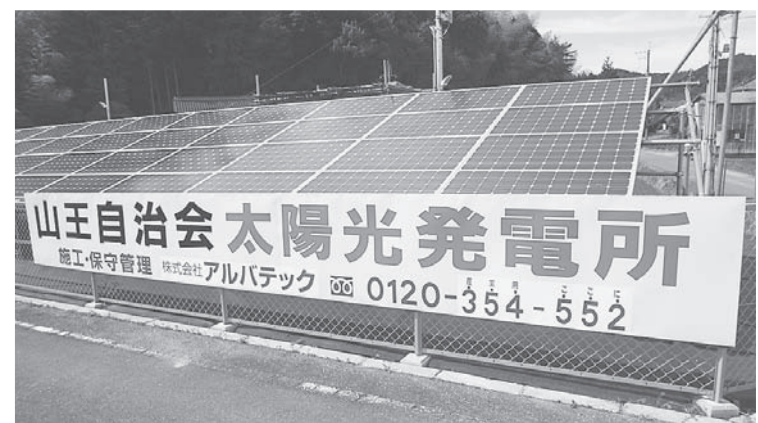
太陽光発電所は土地があっても年をとって耕作出来なくなりつつある人の一つの救世主になるのではないのでしょうか。

タクト春日発電所 F様



丹波市春日町山田724

山王自治会太陽光発電所



昨年4月より発電を開始しました山王自治会太陽光発電所は、自治会初の取り組みとしてマスコミに取り上げていただき、新聞やテレビだけでなく行政や自治会、議会や市民団体など多くの方々の視察や取材がありました。それらの中でも、自治会で抱えている少子高齢化、過疎化の問題はどこでも同じようであるので、その解消の一つの手段として活用できればとのことでした。その後、視察にいられた自治会等で取組

が進んだところは少なかったですが、太陽光発電所を設置し、エネルギーの地産地消と地域の活性化に向け頑張っておられるところも出てきています。その自治会とは、今も連絡を取り合っています。これも新たなつながりとして、うれしい誤算です。

また、個人等で視察にいられた方々も多く、それぞれの地元で太陽光発電所を設置されたと聞いて喜んでいました。

では私たち山王自治会は、その後どうなりましたか。発電量は、当初の想定通りあり、売電収入も計画通りでした。しかし、昨年の7月1日から施行された「電力の固定価格買取制度」の活用を検討し、この2月に当初設備の廃止と新たな設備の認定を受け、現在5月14日より再稼働しています。これにより、1キロワット42円の価格で20年の買い取りとなりました。この結果、当初の目的であった自治活動の活性化と負担の軽減がより図れることになりました。また、昨年4月以降、自治会内でアンケートや議論を繰り返して耕作放棄地の活用などを進めて高年齢者の仕事づくりにも歩みだしています。現在進めているのは、耕作放棄地を自治会で借りてそこに「山椒」の栽培や「小豆」の栽培を始めています。また、「みんなが楽しいこともやろう」と昨年より太陽光発電所のそばの川に飛び交う「蛍の鑑賞会」を開催しています。さらに、みんなが考え、地元のいいところを見つけ出し、元気の出る様々な取り組みをしていきたいです。みんながやる作業は、時間を合わせるのが難しいところもありますが、楽しいものです。みんなの顔が明るくなったような気がするこの頃です。

地域の活性化として取り組んだ太陽光発電所の設置ですが、エネルギーの一躍を担っていると思えることもうれしいです。

これからも、太陽光発電の設置で終わるのではなく、次につなげ、元気な温かな安心して暮らしやすい地域づくりを取り組んでいきます。そして、いろんなところの自治会での取り組みを共有し合い、情報交換もしながらつなげていけたらいいなと考えています。

山王自治会 細田 泰宏様

北近畿太陽光発電普及促進協会

福知山市字堀2363-1

TEL.0773-24-8801 FAX.0773-24-8802

